

頭ノ上下盤ハ屢河底ニ埋沒シ若クハ土壤ノ爲メ不明ニシテ其眞ノ厚サヲ知ルコト難キモ凡ソ七尺以上ニ達スルモノ、如シ、然レトモ炭質一般ニ良好ナラス

八番層(VIII) ハ「シルトルノシユケオマプ」ノ一支流(36)ヨリ(35)ヲ經テ本流ノ上流ニ向フモノニシテ延長約千米ニ達ス、層向略南北ニシテ(35)ニ於テハ殆ント直立層位ヲ示シ(36)ニ於テハ西ニ傾斜スルコト五十度乃至六十五度ナリトス、本層ハ(35)ニ於テ最モ肥大シ炭層ハ十五尺、六尺六寸及十一尺五寸ノ頁岩ヲ以テ四層ニ分タル、第一層ハ七尺ニシテ内採炭部二尺三寸、第二層ハ七尺一寸ニシテ内採炭部三尺三寸、第三層ハ八尺九寸ニシテ内採炭部六尺九寸、第四層ハ十六尺七寸ニシテ内採炭部五尺八寸ヲ有ス、又(36)ハ二層ヨリ成リ其間ニ厚キ頁岩ヲ挾有ス、上層ハ厚サ六尺ニシテ内採炭部三尺七寸ヲ有シ下層ハ五尺ノ頁岩ヲ以テ更ニ二層ニ分タレ一ハ二尺ノ良炭ニシテ他ハ厚サ十一尺七寸、内採炭部四尺二寸アリ

九番層(IX) ハ「シルトルノシユケオマプ」(37)ヨリ(39)ニ至ル迄追跡セラレ
 延長約千二百八十米ニ達ス、層向略南北ニシテ傾斜ハ(37)ニ於テハ東方
 ニ六十度、(38)ニ於テハ東方ニ八十五度、(39)ニ於テハ殆ント九十度ヲ示
 セリ、炭層ハ(38)ニ於テ最モ肥大シ(57)及(39)ニ於テハ著シク縮小セリ、而シ
 テ平均ノ厚サハ十三尺ニシテ内採炭部平均三尺四寸アリ
 十番層(X) ハ「シルトルノシユケオマプ」(40)ヨリ(42)ニ至ル迄追跡セラレ
 延長千八百米ニ達ス、層向略南北ニシテ東方ニ傾斜スルコト五十度乃
 至七十度ナリ、炭層ノ厚サハ平均八尺二寸ニシテ内採炭部平均四尺五
 寸ヲ有ス

以上炭層ノ外探究ニ値スル露頭ヲ舉クレハ左ノ如シ
 「ボロニタチベツ」流域

(12) ハ傾斜南西ニ六十度ヲ示シ厚サ四尺三寸ニシテ殆ント夾ミヲ有
 セスト雖モ炭質良好ナラス
 (13) ハ南西ニ傾斜スルコト三十度、厚サ六尺六寸ニシテ略層ノ中間二

一尺一寸ノ頁岩ヲ挾有セリ、炭質粗惡ナリ

(14) ハ東方ニ傾斜スルコト七十度ニシテ厚サ三尺五寸アレトモ其質劣等ナリ

「シルトルノシユケオマブ」流域

(22) ハ南西ニ傾斜スルコト五十二度ニシテ厚サ三尺ニ達スレトモ炭質良好ナラス

(23) ハ恐ラク(22)ニ接續スルモノニシテ南方ニ傾斜スルコト二十度ナリ、上部ハ土壤ヲ以テ被ハレ僅ニ二尺五寸ヲ露ハシ炭質亦劣等ナリ

(24) ハ傾斜西方ニ三十五度ニシテ厚サ六尺三寸、内五尺六寸ノ石炭ヲ有スレトモ其質良好ナラス

(25) ハ傾斜南西ニ三十度ニシテ厚サ七尺、内石炭部四尺ニ達スルモ其質良好ナラス

(26) ハ傾斜南西ニ四十八度ニシテ厚サ九尺四寸、内採炭部二尺アリ

(27) ハ傾斜南東ニ十度ニシテ厚サ七尺四寸ニ達シ著シキ夾ミヲ有セ

スト雖モ炭質良好ナラス、本層ハ恐ラク七番層ニ屬スヘキモノナラ
ン

(28) ハ屈折シテ二様ノ傾斜ヲ示シ一ハ西方ニ五十五度、他ハ北方ニ二
十八度ナリ、厚サ十尺七寸ニシテ内石炭部六尺八寸ヲ有スレトモ其質
良好ナラス

(29) ハ北東ニ傾斜スルコト三十度ニシテ厚サ七尺六寸、内採炭部四尺
四寸ヲ有ス

(30) ハ南方ニ傾斜スルコト七十度ニシテ厚サ十尺、内採炭部八尺二寸
アリ、本層ハ恐ラク七番層ノ一部ナラン

(43) ハ南西ニ傾斜スルコト六十五度ニシテ厚サ六尺五寸、内良炭四尺
九寸ヲ有ス、本層ハ或ハ十番層ニ屬スルモノナラン

(44) ハ傾斜東方ニ三十度ニシテ厚サ十三尺、内採炭部十尺二寸アリ
本陣ノ澤

(45) ハ南方ニ傾斜スルコト三十三度、厚サ九尺二寸ニシテ一尺六寸ノ

頁岩二層ヲ挾有シ炭質亦良好ナラス

(46) ハ傾斜東方ニ十度ニシテ厚サ三尺九寸、内探炭部二尺一寸ヲ有ス

(47) ハ傾斜東方ニ二十度ニシテ厚サ七尺七寸、著シキ夾ミヲ有スルコトナク炭質亦稍良好ナリ

(48) ハ傾斜西方ニ八十度、厚サ二尺七寸ニシテ全部探炭部ナリ

(49) ハ傾斜北西ニ四十度ニシテ厚サ九尺五寸、内石炭部五尺六寸ヲ有スレトモ炭質良好ナラス

(50) ハ河底ニ没シ上下盤共ニ不明ナリ、傾斜ハ北方ニ三十八度ニシテ厚サ十八尺以上ニ達シ八寸ノ粘土ヲ挾有スルノ外總テ探炭部ニ屬ス

(51) ハ東方ニ傾斜スルコト四十五度ニシテ厚サ二十尺ニ達シ全部探炭部ニ屬ス、本層ハ或ハ(50)ト同一層ニ屬スヘキモノ、如ク推測セラル、モ其間ノ連絡全ク不明ナリ

「ボロニタチベツ」下流ノ西側

(52) ハ北東ニ傾斜スルコト四十度ニシテ厚サ四尺、内良炭ハ上部一尺

ニ過キス

(53) ハ西方ニ傾斜スルコト二十五度ニシテ厚サ四尺ニ達スト雖モ炭質良好ナラス

(54) ハ西方ニ傾斜スルコト六十度、厚サ三尺六寸ニシテ夾ミナク炭質亦稍良好ナリ

分析表

IX	VIII	VII	VI	炭層露頭ノ番號番號		成分 (百分中)							比 重 (攝氏十五度) (トムプソ ン) 氏熱量 計ニ依ル)	發 熱 量
						水分	揮發分	固形炭素	灰分	灰色	骸炭狀態	硫黃		
38	35	32	30	20	18	三、二五	三、六〇	五、〇四	九、一一	褐	膨脹粘結	〇、六六	一、三九	七〇四〇
						九、五一	三、九七	五、二三	四、三〇	同	粘結セス	〇、一七	一、三七	五九九五
						七、三	三、二三	五、四四	五、〇三	同	粘結ス	〇、三六	一、三二	六四三五
						六、三九	三、六六	三、二五	二、〇六	淡褐	同	二、二三	一、四〇三	五九四〇
						五、〇七	三、一四	五、八一	三、六	淡紅	同	〇、五八	一、二六六	七〇九五
						六、五一	三、八五	四、八三	七、八一	淡褐同	同	一、二七	一、三七	六四三五

炭量 本區域ニ於テ採炭部平均三尺以上ヲ有スル炭層ノ海水準面以上ノ炭量大約左ノ如シ

六、六六四、〇〇噸

三 「ルルモツペ」上流區域(第二版〇〇及第三版三三參照)

本區域ハ「ルルモツペ」上流及其支流「ボンルルモツペ」上流ノ灌域ニ屬シ海拔二百五十米乃至三百米ニ達スル山地ニシテ東ハ石狩、天鹽國境山脈ヲ以テ「ボロニタチベツ」下流區域ト境シ北ハ該國境山脈ヨリ派出セル一支脈ヲ以テ小平藥區域ニ接ス、本區域ノ南端ハ峠下驛ヲ距ル約二里ニシテ嘗テ河流ニ沿ヒ車道ヲ開設セシコトアリシモ現時ハ廢頽シテ僅ニ人馬ヲ通スルニ足ル、然レトモ之カ復舊工事ハ頗ル容易ノ事ニ屬ス、要スルニ本區域ハ本炭田中至便ノ地ナリトス

地質ハ下部第三紀層ニ屬スル下部即チ砂岩及頁岩ノ互層及上部即チ頁岩層ヨリ成リ平澤上流ニハ一ノ玄武岩々株現出セリ、地層ハ局部的ニハ多少ノ錯亂ヲ免レスト雖モ大體ニハ頗ル簡單ニシテ「ボンルルモ

ツベ」上流ヨリ平澤落口附近ニ至ル弓形線ヲ軸トシ一ノ背斜構造ヲ形成セリ、斷層ノ著シキモノハ二條アリ、其ニ北々東ヲ指シ一ハ平澤上流ニ、他ハ平澤落口ヨリ少シク上流ニ當リ本流ノ東岸ニ存ス、前者ハ層向斷層ニ近キモノニシテ遠ク下「ケネベツ」上流ニ亙ルモノ、如ク後者ハ寧ロ傾斜斷層ニ屬スルモノニシテ地層ハ爲ニ多少ノ喰違ヲ生セリ炭層 主要炭層五アリ、就中其最上位ナルモノ最良ナリ、左ニ各炭層ニ就キ其概略ヲ述ヘン

一番層(I) ハ平澤上流(I)ヨリ末廣澤(3)、(4)等ヲ經テ「ルモツベ」本流(6)ニ至リ更ニ山ヲ超エテ「ボンルモツベ」(8)ニ至ル、延長約四千九百米ニシテ略其中點卽チ(4)及(5)間ニ於テ一斷層ニ會シ水平ノ喰違凡ソ二百四十米ヲ生セリ、層向概シテ北々西ヲ指シ傾斜ハ斷層以南ニ於テハ東若クハ北東ニ五十度内外ヲ示シ斷層以北ハ之ニ比シ傾斜稍急ニシテ東方ニ六十度乃至七十五度ナリ、本層ハ域内唯一ノ良炭層ニシテ炭質ニ變化少ク夾ミヲ有スルコト亦稀ナリトス、然レトモ其厚サハ多

少ノ變化アリ、即チ平澤(1)ニ於テハ厚サルソ二十尺ニシテ末廣澤ニ於テハ稍縮小シテ十尺以下トナリ(5)ニ至ルニ及ヒ再ヒ肥大シテ十數尺ニ達シ(8)ニ至リ更ニ復タ縮小シテ六尺ニ變ス、而シテ此等ノ平均ハ十二尺七寸ニシテ内探炭部平均十二尺ヲ含有ス

二番層(II) ハ末廣澤(18)及(19)間ニ連亙シ延長約二百五十米ナリ、傾斜ハ(18)ニ於テハ北東ニ三十度ニシテ(19)ニ於テハ東方ニ六十五度ヲ示ス、炭層ハ平均ノ厚サ五尺ニシテ内石炭部平均三尺六寸アリト雖モ炭質概シテ粗惡ナリ

三番層(III) ハ末廣澤(20)及(21)間ニ亙リ延長約二百米ナリ、傾斜ハ(20)ニ於テハ北方ニ四十八度(21)ニ於テハ東方ニ五十五度ヲ示ス、炭層ノ厚サ平均四尺五寸ニシテ内石炭部平均三尺六寸ヲ有スルモ其ノ質良好ナラス

四番層(IV) ハ「ルルモッペ」河流ニ沿ヒ(10)及(12)間ニ連リ延長約三百八十米ナリ、傾斜ハ西方ニ四十度内外ニシテ炭層ノ厚サ平均十四尺ニ達ス

ト雖モ内採炭部ノ平均僅ニ二尺七寸ニ過キス

五番層(V) ハ前記四番層ト略并走シ延長モ亦兩者略相等シ、傾斜ハ東方ニ八十度内外ナリ、炭層ノ平均ノ厚サ十二尺五寸ニ達スレトモ炭質殆ント全部粗惡ナリ、本層ハ恐ラク四番層ト同一層ニ屬スルモノニシテ一ノ層向斷層ニヨリ斯ク二層トシテ現出セルモノナラン

以上炭層ノ外探究ニ值スル露頭ヲ舉クレハ左ノ如シ

「ボンルルモツベ」(9) ハ傾斜北東ニ五十度ニシテ凡ソ六尺ノ頁岩ヲ以テ上下二層ニ分タル、上層ハ厚サ六尺ニシテ炭質粗惡ナリト雖モ下層ハ厚サ凡ソ二十尺ノ良炭ナリ、本層ハ其厚層ナルニ徴シテ恐ラク一番層ニ屬スヘキモノ、如ク推測セラル、モ附近ノ地層著シク錯亂セルヲ以テ果シテ然ルヤ否ヤ明言シ難シ

「ルルモツベ」(15) ハ傾斜北東ニ五十四度ニシテ厚サ九尺以上ニ達シ内採炭部四尺七寸以上アリ

「ルルモツベ」(16) ハ傾斜東方ニ八十五度ニシテ厚サ九尺ニ達スルモ

炭質良好ナラス、本層及(15)ハ共ニ五番層ニ屬スルモノ、如シ

「ルルモツベ」(17) ハ東方ニ傾斜シ厚サ三尺三寸ニシテ其質良好ナラ

ス

平澤(22) ハ傾斜東南東ニ四十度、厚サ二十尺ニシテ内石炭部十六尺ニ

達スルモ其質良好ナラス、本層ハ尙北方ニ多少延長スルモノ、如シ

(23) ハ傾斜南西ニ二十度ニシテ厚サ三尺一寸、内採炭部二尺一寸ヲ有

ス

「ボンルルモツベ」(24) ハ傾斜南東ニ五十度ニシテ厚サ九尺、夾ミヲ有

セスト雖モ其質全部劣等ナリ

「ボンルルモツベ」(25) ハ北西ニ傾斜スルコト八十度ニシテ良炭部厚

サ四尺五寸ヲ露ハシ粘土ヲ以テ被覆セラレ眞ノ厚サヲ測定シ難シト

雖モ層座上ノ關係ニヨリ之ヲ察スルトキハ本層ハ恐ラク一番層ニ該

當スルモノナラン

「ルルモツベ」東岸(26) ハ傾斜東方ニ六十五度ニシテ厚サ九尺四寸ニ達

スルモ夾ミ甚タ多ク一見探掘ニ値セス

「ルルモツペ」東岸(27)ハ傾斜南東ニ四十六度ニシテ厚サ八尺二寸、内探

炭部五尺三寸アリ

「ルルモツペ」東岸(28)ハ傾斜南西ニ五十五度ニシテ厚サ六尺六寸、内探

炭部四尺八寸アリ

分 析 表

炭層ノ 露頭ノ	番 號	番 號	成 分					比 重 (攝氏十五 度半)	發 熱 量 トム ア ン 氏 熱 計 ニ 依 ル							
			水 分	揮 發 分	固 形 炭 素	灰 分	灰 色			骸炭狀態	硫 黃					
I			1	2	5	6										
			四、四五	三、七〇	三、八五	四、二八	四、九一	四、二九	三、五	一、七	淡 紅	粘 結 ス	〇、二五	〇、二五	一、二七	七〇、五
			四、九一	四、六、五〇	四、七、九八	四、六、三	五、一、八七	四、二、七四	五、四、三	五、〇、九	淡 褐	同	〇、二五	〇、二五	一、二七	七〇、五
			五、一、八七	四、六、二九	四、二、七四	四、四、三	一、七	三、五	五、〇、九	淡 褐	同	同	〇、二五	〇、二五	一、二七	七〇、五
			一、七	三、五	五、四、三	五、〇、九	淡 紅	同	同	同	同	同	〇、二五	〇、二五	一、二七	七〇、五
			〇、二五	〇、二九	一、七〇	〇、二六	一、二七	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五

炭量 本區域ニ於テ探掘ノ價值明確ナルモノハ唯一番層アルノミナルヲ以テ炭量ハ該層ニ就キテ之ヲ算出セリ、而シテ水準面ハ末廣澤落

口(海拔百十五米)ニ之ヲ取レリ

水準以上

二、三二二、〇〇〇

噸

水準以下千尺迄

九、四八六、〇〇〇

四 小平蘗區域

(第一版及第二版(三)參照)

本區域ハ「オビラウシユベツ」中流及其支流中「ケネベツ」、下「ケネベツ」、
「サ
ンケシヨーマプ」、「ソーウシユベツ」、「チプウシユナイ」、「ワシノス」、「ボン
オキナイ」等ノ灌域ニシテ三百米乃至四百米ニ達スル山地ナリ、「オビラ
ウシユベツ」本流ノ沿岸及中「ケネベツ」、下「ケネベツ」等ノ下流地方ニハ
坦々タル塔段地若クハ冲積平野ノ發達セルアリテ重要ナル耕地ヲナ
セリ、本區域ニ於ケル中樞地トモ見ルヘキ下「ケネベツ」吐口ハ本流河口
ヲ距ル凡ソ五里ニシテ河流ノ東岸ニ沿ヒテ車道ノ設ケアリ
地質ハ主トシテ白堊紀層及下部第三紀層ヨリ成リ上部第三紀層ハ本
區域ノ北縁ニ小地積ヲ占ムルニ過キス、而シテ「オビラウシユベツ」沿岸
ニハ塔段堆積層發達セリ、火成岩ニアリテハ唯石英粗面岩ノ小岩塊ヲ

下「ケネベツ」上流ニテ目撃セシノミ、地層ハ略「オピラウシユベツ」本流ニ并走セル大斷層ヲ以テ南北二部ニ分タル、南部ハ層向概シテ北々西ヲ指シ中央ニ一大向斜ヲ造リ其兩翼ハ更ニ各背斜構造ヲ示ス、北部ハ南部ト層向ヲ全ク異ニシ地層ハ略東西ニ走リ北方ニ斜下セリ

炭層 炭層ハ其露頭二箇處以上ヲ示スモノ四層ニシテ各層ノ概略ヲ記述スルコト左ノ如シ

一番層(I) ハ下「ケネベツ」下流(10)ヨリ(11)ニ互リ延長約千米ニ達ス、層向北西ヲ指シ南西ニ斜下スルコト三十度乃至六十五度ナリトス、炭層ノ平均ノ厚サ六尺八寸ニシテ内採炭部平均三尺アリ

二番層(II) ハ下「ケネベツ」ノ支流「タンナイ」(13)ヨリ「イチアスイオツプナイ」上流(15)ニ至ルマテ追跡セラレ延長凡ソ三千六百八十米ニ達ス、層向北西ヲ指シ傾斜ハ「タンナイ」ニ於テハ南西ニ七十度以上ニシテ「イチアスイオツプナイ」ニ於テハ南西ニ四十八度ヲ示ス、炭層ノ厚サ平均五尺九寸ニシテ著シキ夾ミヲ有スルコトナク殆ント全部採炭ニ値ス

三番層(III) ハ「ボンオキナイ」上流(22)ヨリ「イタラカオマツプ」(24)ヲ經テ下「ケネベツ」(25)ニ至リ延長約四千二百九十米ニ達ス、層向西北西ヲ指シ傾斜ハ(22)及(23)ニ於テハ北東ニ六十度内外、(24)ニ於テハ北東ニ三十度、(25)ニ於テハ北方ニ三十度ナリ、炭層ハ通例頁岩若クハ砂質頁岩ヲ以テ數層ニ分タル、モノニシテ(22)ハ四層ヨリ成リ各層ノ間隔ヲ上方ヨリ順次ニ示セハ三十五尺、三十五尺及十尺ナリトス、而シテ各炭層ノ厚サハ夫々七尺、四尺二寸、五尺、三尺ニシテ内第一層中ノ稍下位ニ一尺ノ炭質頁岩ト八寸ノ頁岩トヲ挾有セルト、第二層ノ下底ニ七寸ノ炭質頁岩トヲ有スルノ外各層共ニ殆ント採炭部ノミヨリ成レリ、(23)ニ於テハ各六十尺ヲ隔テ、炭層三アリ、第一層ハ厚サ二十二尺ニシテ内採炭部八尺、第二層ハ四尺一寸ニシテ内採炭部三尺五寸、第三層ハ一尺六寸ニシテ全部採炭部ニ屬ス、(24)ハ單ニ一層ニシテ厚サ十四尺、内採炭部二尺七寸アリ、(25)ニ於テハ凡ソ三十尺ノ頁岩ヲ以テ上下二層ニ分タレ土層ハ厚サ十二尺五寸ニシテ採炭部二尺五寸ヲ有シ下層ハ二十一

尺ニシテ内採炭部十八尺五寸アリ

四番層(IV) ハ下「ケネベツ」本流(30)ヨリ(32)ニ亙リ延長約六百五十米ニシ

テ南西ニ傾斜スルコト三十度内外ナリ、炭層ノ厚サ平均六尺五寸ニ達シ著シキ夾ミヲ有セサルモ炭質良好ナラス

以上炭層ノ外尙探究ノ價值アル露頭ヲ舉クレハ左ノ如シ

「ソーウシユペツ」

(1) ハ傾斜北方ニ五十度ニシテ厚サ三尺九寸、内採炭部三尺三寸アリ

(2) ハ傾斜北西ニ五十度ニシテ三十五尺内外ノ頁岩ヲ隔テ、上下二層ヨリ成リ上層ハ十七尺三寸ニシテ内採炭部六尺ヲ有シ下層ハ四尺

ニシテ全部採炭ニ値ス

(3) ハ傾斜北西ニ五十度ニシテ厚キ頁岩ヲ隔テ、上下二層ヨリ成リ、上層ハ厚サ三尺八寸ニシテ内三尺三寸ノ採炭部ヲ有シ、下層ハ五尺四寸ニシテ三尺ノ採炭部アリ

(4) ハ傾斜北西ニ三十四度ニシテ厚キ頁岩ヲ以テ上下二層ニ分タル、

上層ハ八尺四寸ニシテ四尺ノ採炭部ヲ有シ下層ハ一尺八寸ノ良炭ナ
リ、本層ハ恐ラク(3)ト同一層ナラン

「オビラウシュベツ」本流

(5) ハ傾斜北西ニ四十度ニシテ厚サ十二尺五寸、内採炭部三尺三寸ア
リ

(6) ハ傾斜南東ニ六十五度ニシテ厚サ六尺三寸、内採炭部一尺八寸ヲ
有ス

(7) ハ傾斜南西ニ六十度ニシテ厚サ七尺三寸、内採炭部三尺三寸アリ、
本層ハ(6)ト同一層ニ屬スルモノ、如シ

(8) ハ傾斜南東ニ七十度ニシテ三層ヨリ成リ、上層ハ五尺三寸ニシテ
内採炭部四尺五寸、中層ハ十三尺、下層ハ三尺ニシテ兩層共ニ全部採炭
部ナリトス

(9) ハ傾斜南東ニ七十五度ニシテ厚サ十九尺ニ達スルモ稍粉炭狀ヲ
呈ス

「タンナイ」(12) ハ傾斜北東ニ八十度ニシテ厚サ十七尺一寸、内採炭部五尺八寸アリ

「イチアスイオツブナイ」

(16) ハ傾斜南西ニ六十度ヲ示シ厚サ四尺三寸ニシテ夾ミヲ有セスト雖モ炭質良好ナラス

(17) ハ傾斜東方ニ七十八度、厚サ六尺五寸ニシテ内石炭部四尺四寸ヲ有スレトモ其質良好ナラス

下「ケネベツ」右支流(18) ハ傾斜東方ニ六十三度、厚サ四尺七寸ニシテ内採炭部四尺二寸ヲ有ス

下「ケネベツ」本流(19) ハ傾斜北東ニ五十度、厚サ四尺ニシテ全部採炭部ナリ

「イタラカオマブ」(20) ハ傾斜南東ニ三十度、厚サ九尺五寸ニシテ内四尺五寸ノ石炭部ヲ有スルモ其質良好ナラス

下「ケネベツ」本流(21) ハ傾斜東方ニ五十度、厚サ三尺五寸ニシテ炭質粗

惡ナリ

「ボンオキナイ」(26) ハ傾斜北東ニ三十度、厚サ五尺七寸、内石炭部三尺

ニ達スルモ其質良好ナラス

下「ケネベツ」本流(27) ハ傾斜北西ニ十度、厚サ六尺以上ニシテ著シキ夾

ミヲ有セス

下「ケネベツ」本流(28) ハ傾斜北方ニ二十五度、厚サ十二尺ニシテ内石炭

部三尺ニ達スルモ其質良好ナラス

「オビラフネツファンナイ」(29) ハ傾斜東方ニ七十度、厚サ十五尺ニシ

テ内探炭部十三尺アリ

下「ケネベツ」右支流

(33) ハ傾斜北東ニ五十度、厚サ六尺三寸ニシテ夾ミヲ有セサルモ炭質

良好ナラス

(34) ハ傾斜南東ニ四十度ニシテ九尺五寸ノ頁岩ヲ挾ミテ上下二層ニ
分タル、上層ハ厚サ十二尺四寸ニシテ内探炭部六尺ヲ有シ下層ハ厚サ

六尺ニシテ内採炭部二尺ヲ有ス
 (35) ハ傾斜南東ニ三十三度ニシテ厚キ頁岩ヲ以テ上下二層ニ分タレ
 上層ハ厚サ五尺四寸ニシテ内三尺五寸ノ採炭部ヲ有シ下層ハ二尺ニ
 シテ全部良炭ナリ

分析表

炭層ノ 露頭ノ	番 號	番 號	成 分					比 重 (攝氏十五 度中)	發 熱 量 (トムプソ ン氏熱量 計ニ依ル)	
			水 分	揮 發 分	固形炭素	灰 分	灰 色			
III	26	八、一〇	三三、九	三九、五三	一八、四七	灰 白	僅ニ粘結 ス	〇、二六	一、四〇九	五三九〇
	25	五、一六	四〇、三	三五、一四	一九、元	帶紫褐	粘結ス	四、〇七	一、四三四	五七七五
II	15	九、九三	三三、六	四六、八	二〇、三	淡 褐	粘結セス	〇、三九	一、三六四	五九四〇
	13	六、三三	四〇、九	四七、三	五、六〇	黝 白	粘結ス	一、〇六	一、三五	六八二〇

炭量 採炭部平均三尺以上ヲ有スル炭層ノ海水準面以上ノ炭量概算
 左ノ如シ

一一、八九八、一〇〇 噸

第三章 結論

本炭田ハ多數ノ炭層ヲ埋藏セリ、就中「ボロニタチベツ」上流及「ルルモツ
ベ」上流ノ二區域ハ最モ有望ニシテ前者ハ厚サ十尺乃至二十尺ナル良
炭層數層ヲ有シ後者ハ主要ナルモノ唯一層ヲ埋藏スルノミナレトモ
炭質良好ニシテ厚サ平均十二尺ニ達シ延長一里餘ニ互レリ、是等ノ炭
層ノ水準以上及水準以下千尺迄ノ炭量ト「ボロニタチベツ」下流及小平
藥ノ二區域ニ於ケル海水準面以上ノ炭量トノ總計ハ約六千五百萬噸
ニシテ其四割ヲ探炭上ノ損耗ト見做スモ尙三千九百萬噸ヲ算ス、以上
ノ外單一ノ露頭ニシテ厚サ炭質共ニ囑望スヘキモノ多々アリテ其延
長層位等ニ就キ尙精細ナル探究ヲ遂クルニ於テハ更ニ有望ナル炭層
ヲ發見センコト殆ント疑フヘカラス

抑此地方ハ從來交通不便ノ地域ナリシヲ以テ世人ハ炭層ノ存在スル
ヲ知レルモ深ク其賦存ノ狀態ヲ究ムルコトナク隨テ未タ企業ノ機運
ニ會セスシテ以テ今日ニ及ヘリ、今ヤ留萌鐵道開通シ築港モ亦既ニ著

手セラレ交通機關漸ク完備ノ期ニ近ツカントス、本炭田ノ開發蓋シ遠
キニアラサラン